

ユーシン事業

欧州事業の早期ターンアラウンドと
シナジー最大化をはかり、
車載ビジネスを中心に競争力向上へ

常務執行役員
ユーシン事業本部長
芳川 浩士



2021年3月期の概要

自動車部品は、主に第1四半期における自動車市場減速により売上が大幅に減少しました。これは、新型コロナウイルスの拡大により欧州を中心に稼働制限の影響を受け、生産が大幅に低下したことによります。第2四半期以降は、市場回復に伴い売上高も回復傾向が続きました。

この結果、売上高は1,051億円、営業損失は19億円、営業損失率は1.8%となりました。営業損失については、構造改革に係る約43億円の一時費用があったことを勘案すると、実質的な営業利益は前期並みとなりました。

2022年3月期の見通し

自動車市場の回復による影響などにより、増収と損益の改善を見込んでいます。欧州における構造改革について、人員削減は2022年3月末までに実施する計画としています。

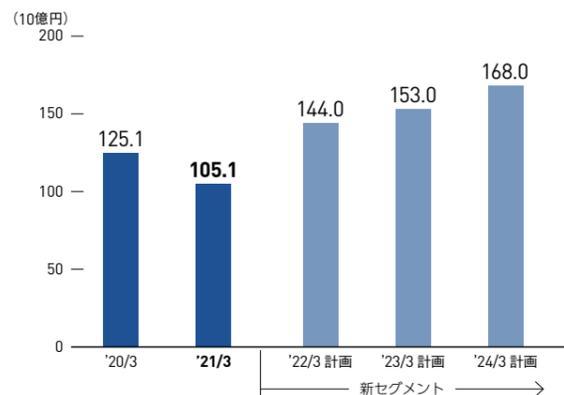
中期事業計画

成長領域にフォーカスし
業績改善をはかる

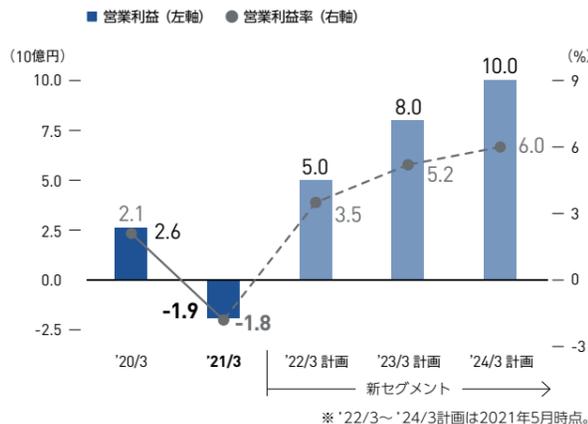
主なポイント

- 1 構造改革①
欧州における今期300名の
人員削減は来期より収益貢献
- 2 構造改革②
低価格品からの撤退
- 3 高付加価値製品へのシフトを加速
① CSD
② Flush handle
③ e-Latch
- 4 そうごう
相合戦略の成果が発現開始

売上高



営業利益／営業利益率



※'22/3～'24/3計画は2021年5月時点。

2021年3月期の概況 ユーシン事業ハイライト

売上構成比

11%

ROIC

-2%

内製率UPIによる

コスト
低減

全社の技術を相合した

新製品

次の10年を見据えた基本戦略

ユーシン事業は、欧州事業のターンアラウンドとシナジーの創出をはかり、車載ビジネスを中核として住宅機器も事業拡大していくことが基本戦略となります。そのためには、品質改善や生産性の向上、経営管理体制の強化などのほか、グループ全体のグローバル人材や製造ノウハウを注入することで早期の収益改善を進めるとともに、技術の「相合」により競争力のある製品を確立してまいります。

コア・コンピタンス

メカニカル機構から電子技術、さらにはソフトウェアまで、クルマに関するあらゆる分野のシステムを開発設計から生産まで一貫して手掛けるノウハウ。広島マザー工場では、商品開発、試作、量産、市場投入、品質保証まで一貫対応するほか、金型を中心とする基幹部品の内製化により外部へのノウハウ流出も防止しています。

『そうごう「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

ミネベアミツミが保有する製品開発力を相合することで自動車の開閉機構の進化に大きく貢献することができま。一例として、年々車両への搭載率が加速しているパワーリフトゲート向けCSD*があります。CSDの心臓部ともいえるモーターとベアリングはミネベアミツミ製を搭載し、モーター、ハーネス ASSY およびギアボックスをユニットとして集中生産することで安定的に高品質な製品を生産しています。その他、当社独自のモジュール化/アクチュエータ化による共通エンジンを開発することで他社との違いを創出し、ミネベアミツミの効率的な生産体制の

もと新規顧客の獲得も視野に入れた拡販を目指します。

* Compact Spindle Drive



社会課題を解決するソリューション創出

スマートフォンを使用したデジタルキーの普及を通して、福祉車両や介護の必要な方、お年寄りにとって使いやすい車づくりに貢献できると考えています。

当社が独自に開発したe-Accessは、キーの認証からドアのアンロックやオープンまでの乗降システムをスマートフォンと連動させる技術です。それにより車両がスマートフォンの位置に応じてドアの開け閉めを電動で自動的に起こすことが可能となりました。例えば、スマートフォンを持って車両ドアに近づくと自動的にドアが開き、車両から

離れると自動的に閉まります。また、アウターハンドルのグリップを軽く握ることで自動でドアロックを解除したり、半ドアの状態でも自動で完全ロック状態まで閉めたりすることができます。このように、自動化/電動化という特徴をいかしハンズフリーでドアの開閉を制御することで、利用者さらなる利便性を与えることができます。

今後も、当社技術をいかした安心、安全な製品の供給を通して、社会の発展に貢献してまいります。